

①大谷地区海岸高潮対策事業 ～砂浜を維持し、まちづくりと連携した防潮堤計画～

受賞機関 宮城県 気仙沼土木事務所
気仙沼市

キーワード 海水浴場の砂浜維持、創造的復興、
海岸の所管換、線路敷をBRT化

全建賞審査委員会の評価ポイント

堤防復旧に際して海水浴場の砂浜維持とまちづくりを連携させた事業。地域住民等が中心となって大谷海岸地区の整備構想をとりまとめ、多くの関係機関が連携して取り組んだことにより、例えば、国道と防潮堤を兼ねる「兼用堤」とすることで砂浜の維持、道の駅整備も含めて連携して実施し、地域の安全のみならず、砂浜と眺望を活かした地域活性化との両立を図り、新しい賑わいが創出されたことなどが評価された。

1. はじめに

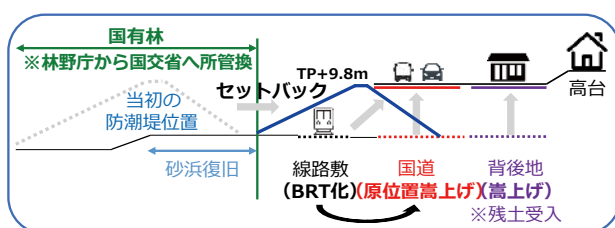
東日本大震災で壊滅的被害を受けた大谷地区海岸では、津波と地盤沈下により砂浜のほとんどが消失した。残された僅かな砂浜の上には、高さ9.8mの防潮堤の建設が予定され、地域の象徴である大谷地区海岸の砂浜が失われる計画であり、地元説明会において反対、計画の変更を求められたため、若者世代を中心とした「大谷里海づくり検討委員会」が作成した住民案を基に、各行政機関の関係者協議や検討委員会との意見交換会等で議論を重ね、海岸背後を走る国道を嵩上げし、防潮堤を兼ねることで震災前の砂浜の広さを復旧する計画へ変更した。本事業は、海水浴場の砂浜維持とまちづくりを連携させることにより、地域の安全のみならず、砂浜と眺望を活かした地域活性化との両立を図る創造的復興に取り組んだものである。

2. 事業の概要

大谷地区海岸の復旧においては、環境省の「快水浴場百選」に選ばれた砂浜を埋めて海岸防災林と防潮堤を復旧する当初の計画を見直し、林野庁所管の治山海岸の一部を国土交通省所管の建設海岸に変更する海岸の所管換を行い、防潮堤位置を山側へ大きくセットバックすることで従前の規模の前浜を確保した。

また、県事業の附帯工事として国道の原位置嵩上げを行うことにより、国有林の背後にあったJRの線路敷をBRT化して防潮堤用地にするとともに、市のストック

復旧イメージ



砂浜を維持し、地域の賑わい創出に向けた復旧計画

ヤード整備事業を活用した残土受入により背後地も嵩上げし、被災した道の駅「大谷海岸」を復旧。砂浜から背後地までの一体的な整備を行った。

3. 事業の成果

大谷地区海岸の砂浜の再生をまちづくりの上位概念とし、地域の活動を通じて合意形成を図ることにより、防潮堤計画の見直しを進めることができた。また、治山海岸は保安林エリアより山側に海岸護岸施設を設置できない制約があるため、海岸の所管換を行うことで防潮堤を山側へ大きくセットバックし、砂浜面積2.8ha以上を確保することができた。このことにより、国道と背後地を嵩上げし、JR気仙沼線BRT大谷海岸駅を併設した道の駅を国道背後地に移転、国道の法面をベンチ状の防潮堤とすることで、海が見える景観を確保しつつ、法面自体も人が集える場所とし、親水性を高め、さらに海岸のどこにいても避難が可能な構造とすることが可能となった。



令和3年7月17日海水浴場オープン後の航空写真

4. おわりに

大谷地区の象徴である大谷海岸の砂浜の再生は地域の悲願であり、地域が一体感を持って作成した住民案が実現されたことにより、人々の心に強い復興の実感をもたらした。今後は、定期的なビーチクリーンによる環境美化やイベントの開催により、海水浴客や観光客のリピーターの増加とともに、道の駅などの商業施設の収益の増加が見込まれる。また、海洋教育等の場として活用することで、地域の子どもたちへの教育効果と郷土愛の醸成が期待される。

賛助会員 (株)建設技術研究所、五洋建設(株)、(株)只野組、(株)長大、(株)本間組、三井共同建設コンサルタント(株)、若築建設(株)、(株)出口組